

イマジカ・ロボット ホールディングス 個人投資家会社説明会

東証一部 証券コード：6879

2018年8月7日（火）

Imagica Robot Holdings Inc.



1

当社の概要

2

事業セグメント別の概要

3

2020年に目指すKPI

当社の概要



会社概要

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

創業



1935年

(極東現像所として京都・太秦で創業)

連結売上高



913億円

(2018年3月期)

連結営業利益



24億円

(2018年3月期)

連結従業員数



3842名

(2018年3月31日現在)

連結子会社



61社

(2018年3月31日現在)

海外売上比率



31.8%

(2018年3月期)



歴史～創業1935年から株式公開前まで～

1935

京都太秦で
極東現像所として創業



1942

商号を東洋現像所に変更

1992

フォトロンに資本参加

Photron

1996

CSデジタル放送事業に参入



1930s~40s
創業期

1950s~80s
フィルム現像事業拡大

1990s
事業多角化

2000s
HD体制スタート

1951

東京・五反田工場
(現 IMAGICA東京映像センター)
操業開始



1986

商号をIMAGICAに変更



2006

ロボットと経営統合、
ホールディングス体制に移行



IMAGICA

ROBOT

2009

イマジカデジタルスケープ
を買収

IMAGICA
DIGITAL ESCAPE



歴史～株式公開から現在～

2011 JASDAQ上場

2012 東証二部上場

2014 東証一部上場



2011～2014
株式公開、Public companyへ

2015～
グローバル化推進、事業ポートフォリオ見直しにより
V字回復、新たな成長ステージへ



2015 SDIメディア買収

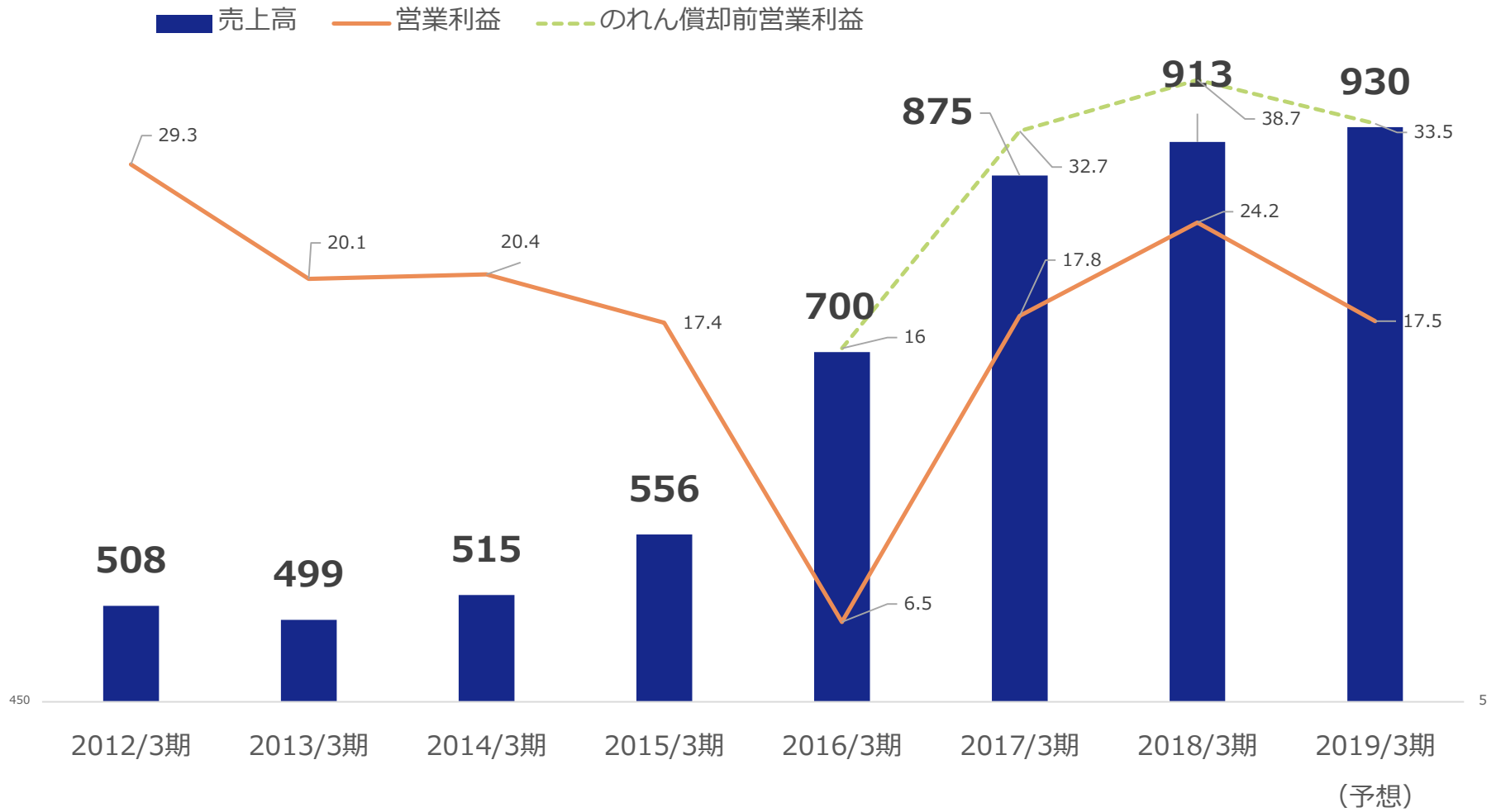
2016 OLM買収

2017

- ・ IMAGICA TV（放送事業）を売却
- ・ 4事業セグメントに変更
- ・ 中期経営計画発表



業績動向



2018年10月1日 社名変更

IMAGICAの文字の下にあるアークは、①グローバル②グループの一体感を表現



株式会社 **IMAGICA GROUP**

IMAGICA GROUP Inc.



社名変更の背景と目指す姿

➤ グループを包含したブランドの再構築

創立の原点に立ち返り、ラテン語で「映像の」を表す **imaginica** から発した **「IMAGICA」** をグループ共通のキーワードに冠し、全グループ企業の集合体を表現する新グループ名を決定。

➤ 目指す効果・期待

名称変更を機会とした社内外ブランディングの推進によるグループ全体の知名度アップ



新規顧客開拓、他企業とのビジネス提携、人材確保に向け、
プレゼンスの向上を目指す



私たちは、誠実な精神をもって新たな価値創造につとめ、
世界の人々に「驚きと感動」を与える
映像コミュニケーショングループを目指します。



映像制作の流れと当社グループの関わり



企画

TV局,代理店,
映画会社 等+
プロダクショ
ン

制作

プロダクション
等

編集

ポスト
プロダクション
等

ローカ ライゼーシ ョン

字幕・吹替え 等

納品

<映画制作>
<アニメ制作>
<ライブ映像>
<OOH>

<TV番組制作>
<CM制作>
<WEB制作>

<映画・CM・TV・アニメ>
<GAMEデバッグ>

<字幕・吹替え>

<デジタルシネマ>
<データ変換>

ROBOT



P.Y.C.S.



IMAGICA **IMAGEWORKS**



IMAGICA **DIGITALSCAPE**



IMAGICA **LIVE**

放送機材 : **Photron** **ipmotion**

人材派遣 : **IMAGICA DIGITALSCAPE** **weather map** **COSMO SPACE** **IMAGICA KADOKAWA EDITORIAL CO.,LTD.** **ALO**
IMAGICA ALOBASE



事業セグメント別の概要



4つの事業セグメント

セグメント別売上構成比

映像システム事業
売上高：149億円

主な所属事業会社

Photron

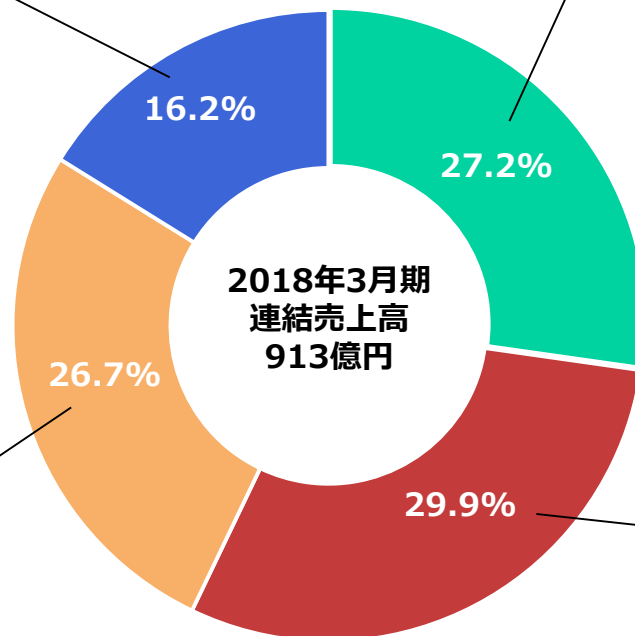
映像コンテンツ事業
売上高：252億円

主な所属事業会社

ROBOT



P.V.C.S.



2018年3月期
連結売上高
913億円

映像制作サービス事業
売上高：277億円

主な所属事業会社

IMAGICA

IMAGICA DIGITAL CAPE

メディア・ローカライゼーション事業
売上高：248億円

所属事業会社



* 連結売上高913億円は、事業セグメント売上高の合計額と連結調整額を含んでおります。
また円グラフ%は、連結調整額を除く、事業セグメント売上高に対する構成比率です。



映像コンテンツ事業

➤ エンタテインメント性の高い、様々なジャンルの映像コンテンツを生み出す



ミュージックビデオ



プロジェクションマッピング



デジタルサイネージ



アニメ



-VR-



PR動画

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム



過去の劇場公開代表作品-1

日本を代表するヒット映画を次々手掛ける

「ALWAYS三丁目の夕日'64」
2012年1月21日公開

「BRAVE HEARTS 海猿」
2012年7月13日公開

「永遠の0」
2013年12月21日公開

※著作権の都合上、画像を掲載しておりません。

(作品画像)

(作品画像)

(作品画像)

©2012 「ALWAYS三丁目の夕日'64」製作委員会
©2012 フジテレビジョン、ROBOT、ポニーキャニオン、東宝、小学館、エー・チーム、FNS27社
©2013 「永遠の0」製作委員会

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム



過去の劇場公開代表作品-2

日本を代表するヒット映画を次々手掛ける

「STAND BY ME ドラえもん」
2014年8月8日公開

「22年目の告白 —私が殺人犯です—」
2017年6月10日公開

「DESTINEY鎌倉ものがたり」
2017年12月9日公開

※著作権の都合上、画像を掲載しておりません。

(作品画像)

(作品画像)

(作品画像)

©2014 「STAND BY ME ドラえもん」 製作委員会

©2017 「22年目の告白-私が殺人犯です-」 製作委員会

©2017 「DESTINEY鎌倉ものがたり」 製作委員会

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム



過去の劇場公開代表作品-3

日本を代表するヒット映画を次々手掛ける

「劇場版ポケットモンスター キミにきめた!」

2017年7月15日公開

「映画 妖怪ウォッチ シャドウサイド 鬼王の復活」

2017年12月16日公開

※著作権の都合上、画像を掲載しておりません。

(作品画像)

(作品画像)

©Nintendo・Creatures・GAME FREAK・TV Tokyo・ShoPro・JR Kikaku
©Pokémon©2017 ピカチュウプロジェクト

©LEVEL-5/映画「妖怪ウォッチ」プロジェクト 2017

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム



2018年度 劇場公開作品

「ちはやふる - 結び -」

2018年3月17日公開

「ラプラスの魔女」

2018年5月4日公開

「OVER DRIVE」

2018年6月1日公開

※著作権の都合上、画像を掲載しておりません。

(作品画像)

(作品画像)

(作品画像)

©2018「ちはやふる」製作委員会
©末次由紀/講談社

©2018「ラプラスの魔女」製作委員会

©2018「OVER DRIVE」製作委員会

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム



2018年度 多彩な制作作品

Hulu×HBO共同製作ドラマ
「ミス・シャーロック/Miss Sherlock」

オリジナルTVアニメーション
「スペースバグ」
TOKYO MXほかにてOA中

※著作権の都合上、画像を掲載しておりません。

(作品画像)

(作品画像)

© 2018 HJ HOLDINGS, INC & HBO PACIFIC PARTNERS, V.O.F

©W.BABA&TMS

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム



これからの公開作品

「オズランド 笑顔の魔法おしえます。」

2018年10月26日公開予定

「かぞくいろーRAILWAYS わたしたちの出発ー」

2018年11月30日公開予定

※著作権の都合上、画像を掲載しておりません。

(作品画像)

(作品画像)

©小森陽一／集英社 ©2018 映画「オズランド」製作委員会

©2018「かぞくいろ」製作委員会

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム

Imagica Robot Holdings Inc.



映像制作サービス事業

映像・音声編集



幅広いサービス領域

- ・映像編集/MA (音声編集)
- ・CG合成/VFX
- ・撮影
- ・デジタルシネマ上映サポート
- ・データ変換/メディア変換 等



人材派遣



クリエイティブ分野に特化

- ・人材派遣
- ・社員紹介
- ・新卒採用支援
- ・求人メディア運営
- ・気象予報士派遣 等



クリエイティブ業界に特化した就職支援サイト

「Yahoo! 動画天気予報」を通じた気象コンテンツ提供

映像アーカイブ・映像中継



- ・Jリーグのメディアセンター機能を担当
- ・プロゴルフ、箱根駅伝、マラソン、Bリーグなどスポーツと大型音楽LIVEの中継を担当



制作受託サービス



- ・WEB制作、ゲームCG制作
- ・デバッグサービス、動画撮影サービス



全国各地の撮影・取材ならマルチピッツ

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

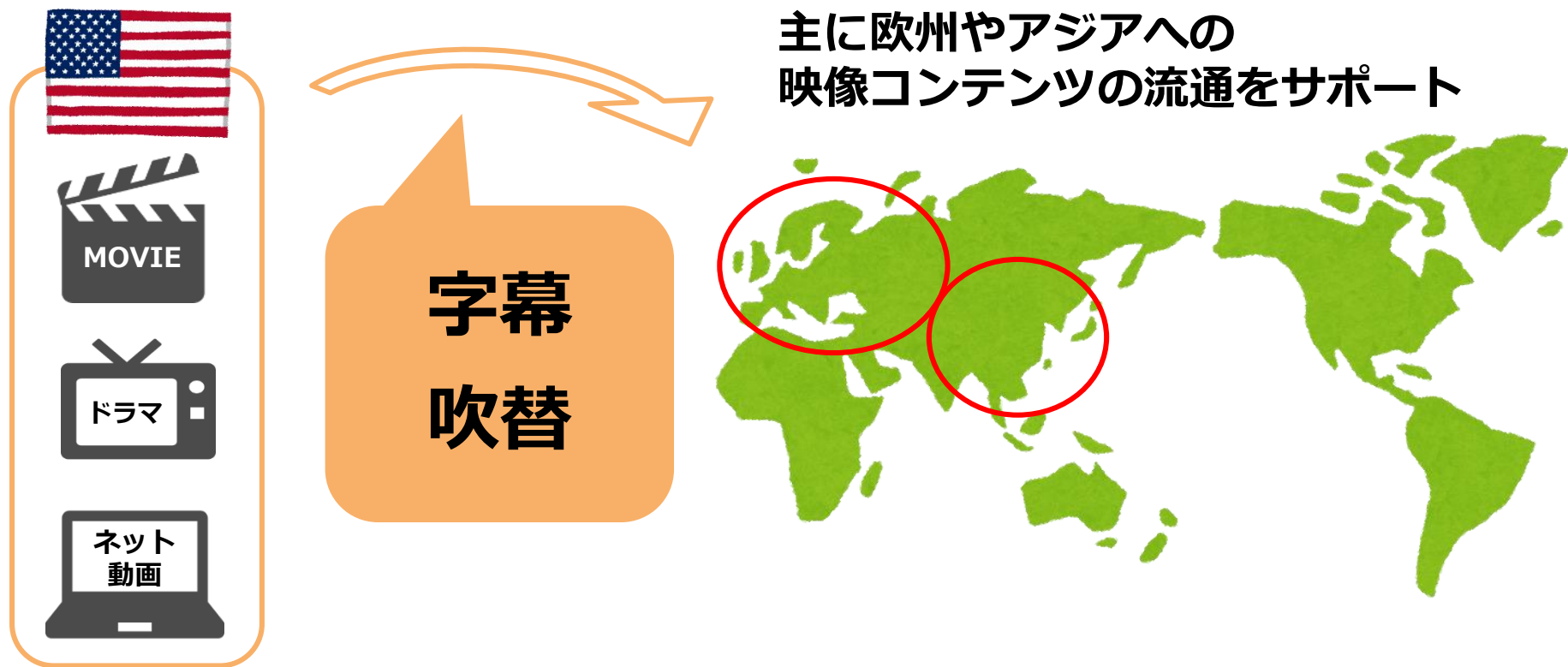
映像システム



メディア・ローライゼーション事業

➤ ローライズ (Localize) とは？

ハリウッドメジャー作品のような、ある国で作られた映像作品を、外国向けに、その国の言語に対応させること。



メディア・ローカライゼーション事業

ローカライズ市場
世界トップレベルのシェア



対応言語数



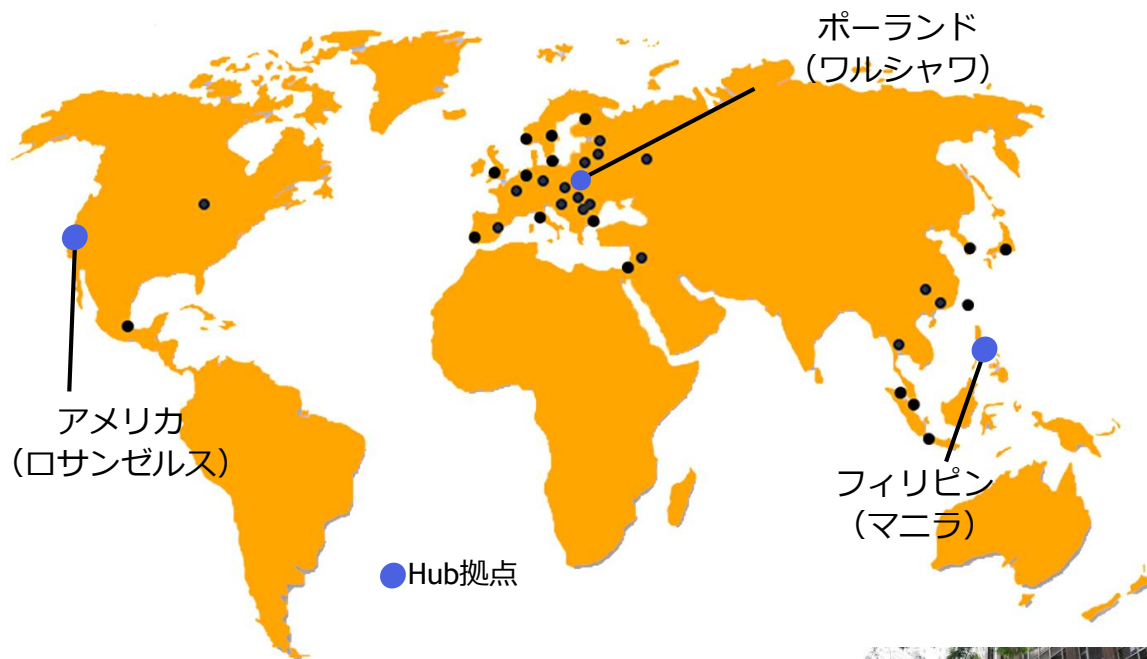
字幕

70言語

吹替

50言語

拠点数 **37**カ国
(欧州、北中米、アジア中心)



アメリカ



ポーランド



フィリピン

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローカライゼーション

映像システム



主要分野



画像システム



放送映像システム



CADソリューション



医用画像システム



LSI開発

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム



主要分野① 画像システム



- 超スローモーション映像を撮影できる「ハイスピードカメラ」等を製造・販売
- 世界トップレベルのシェアで、航空宇宙、スポーツ、ミリタリー等の分野で利用されている

Photron
株式会社 フォトロン

ハイスピードカメラ映像

実時間映像



自動車衝突安全試験 第七弾
スモールオフセット衝突試験
Car to Car・15%

Resolution : 1920 × 1080 pixels

Frame Rate : 1,000 fps

Shutter Speed : 1/2,000 sec

FASTCAM

Made in Japan

映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム



主要分野② 放送映像システム



- 放送局や制作プロダクションを主な顧客として、放送映像機器に関する設計から導入までをトータルに提案



映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム

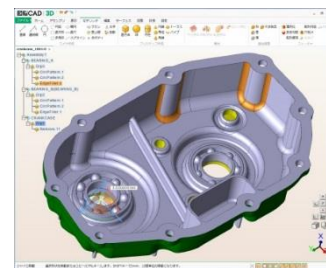


主要分野③



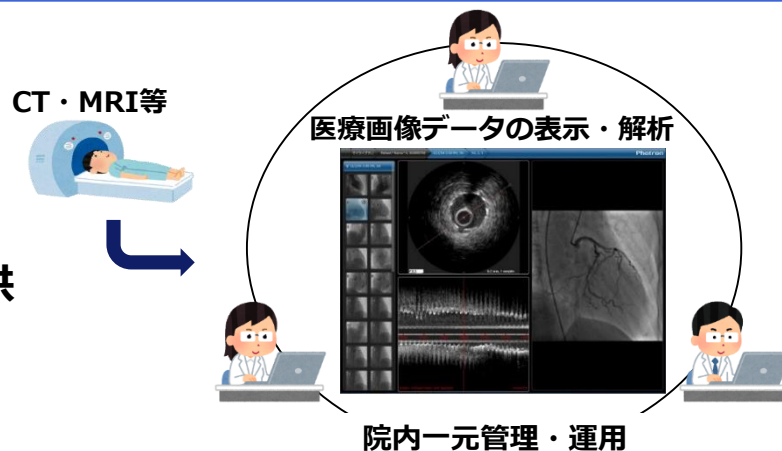
CADソリューション

- CADソフトの開発・販売
- 製造/土木/建築など様々な業種に対応



医用画像システム

- CTやMRIなどの医療画像データの表示、解析、一元管理、運用などを実現するネットワークの提供
- 全国380カ所以上の医療施設に導入



LSI開発

- 画像・映像処理を行なうLSIの開発・販売
- プロジェクターやサイネージ等に搭載



映像コンテンツ

映像制作サービス

メディア・ローライゼーション

映像システム



2020年に目指すKPI



2020年に目指すKPI

2020年にありたい姿

映像コンテンツ、映像制作サービス、映像システムソリューションを世界最高レベルでお届けできるOnly Oneのクリエイティブ&テクノロジー集団

2020年に目指すKPI

売上高 1,000億円

営業利益率 5.0%



成長事業への投資

①コンテンツへの投資

②光学計測分野の拡大

③CMオンライン送稿システムの運用

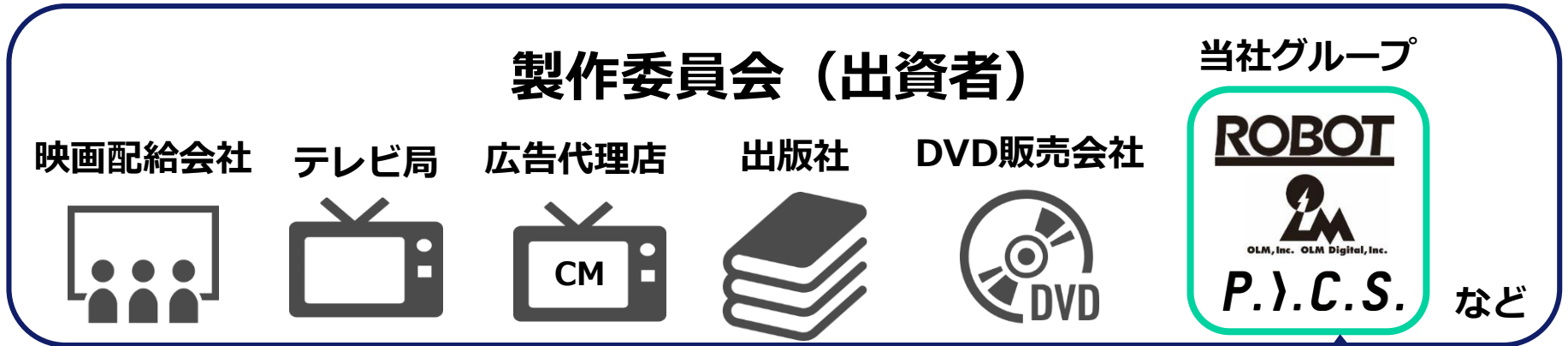
④映画予告編制作会社の買収

⑤映像技術を使った新規ビジネスへの投資

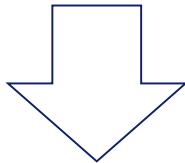


投資① コンテンツへの投資

製作委員会方式の製作スキーム



制作委託



当社グループ

製作委員会への**出資比率を高め**、
主幹事として、

オリジナルコンテンツの開発を目指す



コンテンツのライツビジネス拡大



投資① コンテンツへの投資

劇場映画

「オズランド 笑顔の魔法おしえます。」

- ・ 業界有数のスタッフキャストによるROBOT企画幹事作品
- ・ 熊本県にある遊園地グリーンランドの全面協力を受け制作した、地域密着型の作品

(作品画像)

10月26日 全国ロードショー

©小森陽一／集英社 ©2018「オズランド」製作委員会

Imagica Robot Holdings Inc.

オリジナルTVアニメーション

「スペースバグ」

- ・ 中尾浩之（ピクス所属ディレクター）脚本・監督による日韓共同制作作品
- ・ 海外マーケットを視野に日・英語吹替えを同時制作

(作品画像)

7月8日（日）より
TOKYO MXほかにて放送スタート

©W.BABA&TMS



投資② 光学計測分野の拡大

【KAMAKIRIシリーズ】

液晶テレビやスマートフォン向け透明フィルム、および自動車向けガラス・樹脂部品の製造工程で使われる検査装置



代替品のない**オンリーワン**な製品

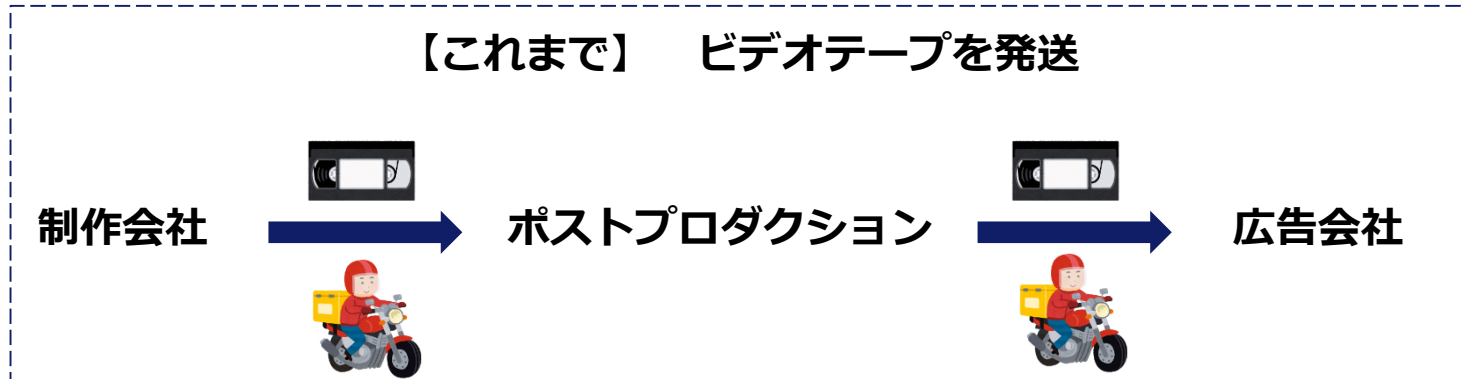
- ・従来の検査装置に比べ、検査速度が**1000倍**高速化
- ・製造段階での**リアルタイム**検査により、歩留まりが大幅に向上
- ・国内光学フィルムメーカー**6割**のシェア獲得、
今後は**グローバル展開**へ

KAMAKIRI



投資③ CMオンライン送稿システムの運用

テレビCM業界におけるCM素材の搬入方法



【2017年10月より】 CMオンライン運用がスタート



投資④ 映画予告編制作会社の買収

- ✓ 2017年4Qに、洋画の映画予告編制作会社であるPPCを買収
- ✓ 会社概要
 - 1 売上高：14億円（2018年見込み）
 - 2 拠点：ロンドン・ロサンゼルス
- ✓ 買収目的と効果
 - 1 高収益体質の企業を取り組むことで収益率アップを狙う
 - 2 映画予告編ローカライズへの事業拡大



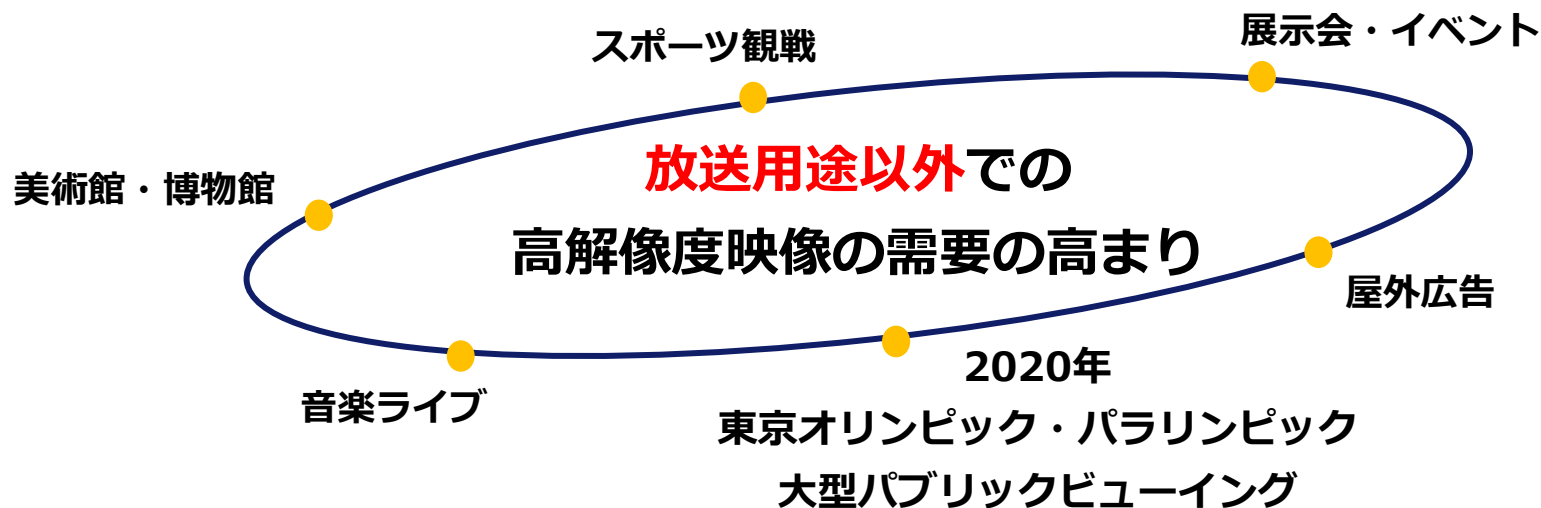
制作実績

- ・ ジュラシック・ワールド 炎の王国
- ・ トランスフォーマー 最後の騎士王
- ・ モアナと伝説の海
- ・ ウルフ・オブ・ウォールストリート
- ・ 007 スカイフォール
- ・ スラムドッグ\$ミリオネア

など



投資⑤ 映像技術を使った新規ビジネスへの投資



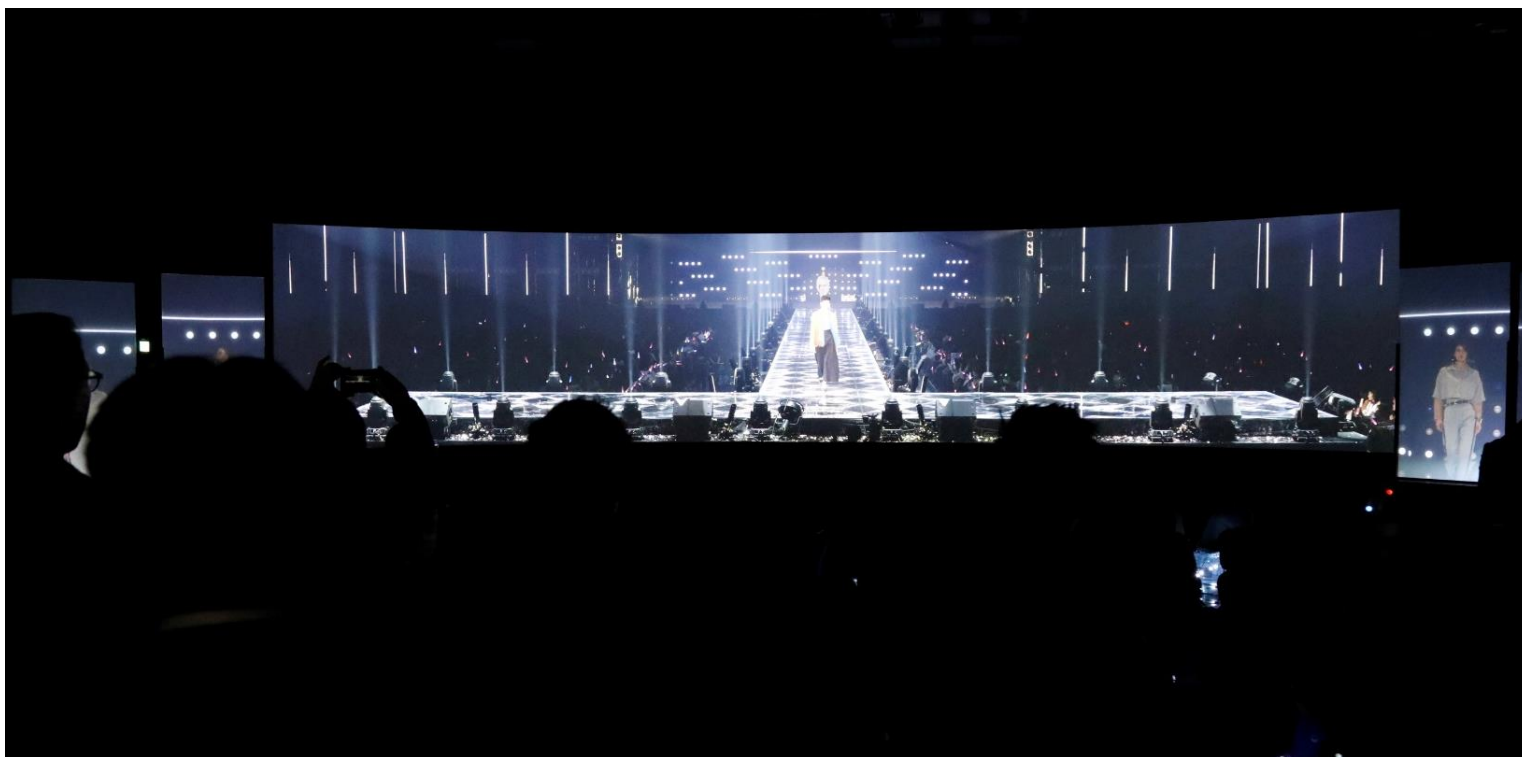
映像配信高度化機構への参画などを通じて他企業と連携し、
4K/8Kや高度映像配信システムの技術を組み合わせた
新しいビジネストライアル（実証実験）を実施



投資⑤ 映像技術を使った新規ビジネスへの投資

➤ 実証実験事例：12Kワイド映像によるライブビューイング

- ✓ 2018年3月31日に、横浜アリーナで開催された「TOKYO GIRLS COLLECTION」を4Kカメラで撮影、表参道のイベントスペースにライブ映像として配信
- ✓ 4Kx3面 = **12Kのワイドスクリーン**に上映することで、これまでのLIVE映像とは違う、**高臨場感、高精細感**を実現



參考資料



会社概要・株式データ

| | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|--|-----------|---------|------------|--------|----------------------------|--------|----------------------|--------|--------------------------|--------|
| 会社名 | 株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス (東京証券取引所市場第一部 証券コード：6879) | | | | | | | | | | | |
| 創業 | 1935年2月18日 (極東現像所として京都・太秦で創業) | | | | | | | | | | | |
| 代表者 | 代表取締役会長 長瀬文男 / 代表取締役社長 塚田真人 | | | | | | | | | | | |
| 事業内容 | 映像コミュニケーショングループ | | | | | | | | | | | |
| 連結売上高 | 913億51百万円 (2018年3月期) | | | | | | | | | | | |
| 従業員数 | 3,842名 (2018年3月末) ※臨時雇用者を除く | | | | | | | | | | | |
| グループ会社 | 連結子会社：61社 (2018年3月末) | | | | | | | | | | | |
| 単元株式数 | 100株 | | | | | | | | | | | |
| 株主優待 | 株主優待制度なし | | | | | | | | | | | |
| 主要株主と持株比率 | <table border="0"> <tr> <td>株式会社クレアート</td> <td>57.89 %</td> </tr> <tr> <td>株式会社三井住友銀行</td> <td>2.79 %</td> </tr> <tr> <td>日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)</td> <td>2.56 %</td> </tr> <tr> <td>株式会社フジ・メディア・ホールディングス</td> <td>1.90 %</td> </tr> <tr> <td>日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)</td> <td>1.70 %</td> </tr> </table> | | 株式会社クレアート | 57.89 % | 株式会社三井住友銀行 | 2.79 % | 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) | 2.56 % | 株式会社フジ・メディア・ホールディングス | 1.90 % | 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) | 1.70 % |
| 株式会社クレアート | 57.89 % | | | | | | | | | | | |
| 株式会社三井住友銀行 | 2.79 % | | | | | | | | | | | |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) | 2.56 % | | | | | | | | | | | |
| 株式会社フジ・メディア・ホールディングス | 1.90 % | | | | | | | | | | | |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) | 1.70 % | | | | | | | | | | | |
| | 2018年3月末時点 | | | | | | | | | | | |



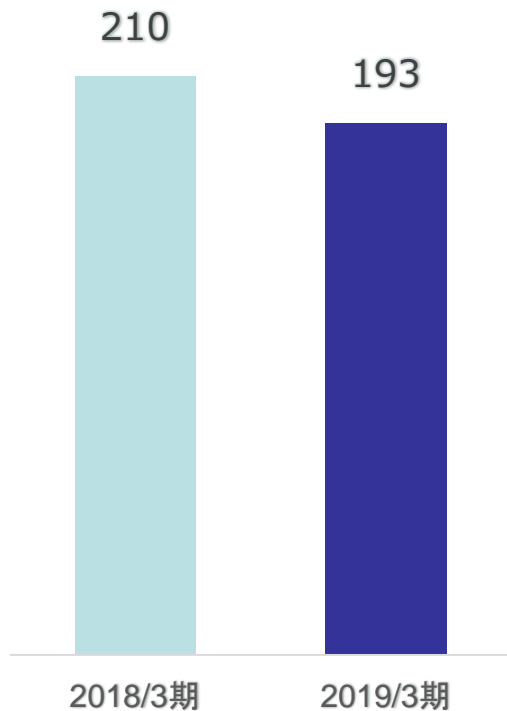
1Q連結実績

(単位：億円)

売上高

193億円

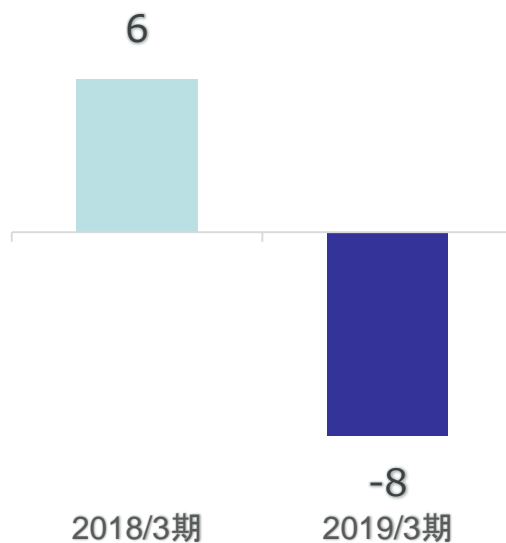
前年同期比
△17億円



営業利益

△8億円

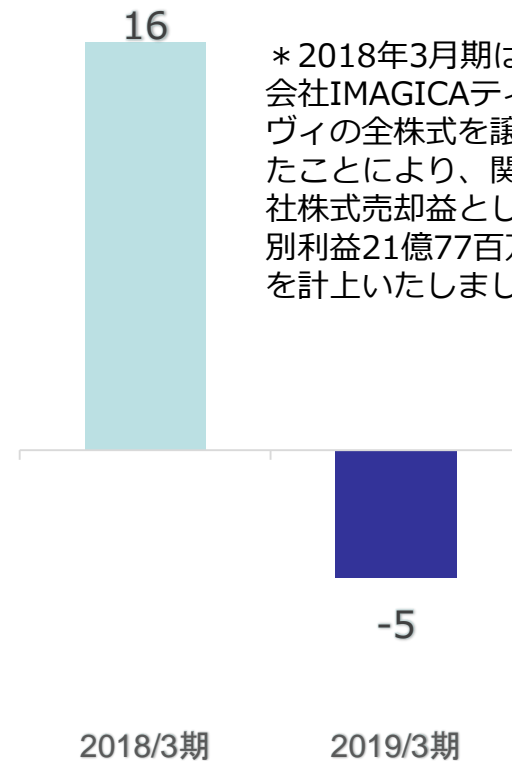
前年同期比
△15億円



親会社株主に 帰属する当期純利益

△5億円

前年同期比
△21億円



* 2018年3月期は株式会社IMAGICAティーヴィの全株式を譲渡したことにより、関係会社株式売却益として特別利益21億77百万円を計上いたしました。



セグメント別 1Q実績

(単位：百万円)

| | | 2018年3月期 | 2019年3月期 | | | 分析 |
|-------------------|---------|--------------|--------------|--------|-------|---|
| | | 1Q実績 | 1Q実績 | 前年増減比 | 前年増減差 | |
| 映像コンテンツ事業 | 売上高 | 5,229 | 4,685 | △10.4% | △543 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 劇場アニメの売上計上が第2四半期に期ズレしたこと等により減収 ▶ 4月スタートのTVアニメ新シリーズやフルCG作品の制作コストが一時的に増加したこと等により減益 |
| | 営業利益 | 92 | △374 | - | △466 | |
| | (営業利益率) | (1.8%) | (---%) | - | | |
| 映像制作サービス事業 | 売上高 | 6,684 | 6,228 | △6.8% | △456 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ TVアニメ向けポストプロダクションとデジタルシネマは堅調に推移 ▶ 番組改編等によりTV向けポストプロダクションの受注が減少 |
| | 営業利益 | 300 | △11 | - | △312 | |
| | (営業利益率) | (4.5%) | (---%) | - | | |
| メディア・ローカライゼーション事業 | 売上高 | 6,031 | 5,840 | △3.2% | △190 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 欧州でのローカライズサービスは堅調に推移 ▶ OTT向け旧作品ローカライズの受注減により減収減益 |
| | 営業利益 | △56 | △591 | - | △534 | |
| | (営業利益率) | (---%) | (---%) | - | | |
| 映像システム事業 | 売上高 | 3,411 | 2,919 | △14.4% | △492 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ プロ用映像機器の大型案件が2Q以降へ期ズレにより減収減益 ▶ CMオンライン送稿システムの販売は堅調に推移 ▶ 中国向け映像・画像用LSI販売好調 |
| | 営業利益 | 363 | 204 | △43.6% | △158 | |
| | (営業利益率) | (10.6%) | (7.0%) | △43.6% | | |

* OTT = 「Over The Top」の略称。動画や音声などのコンテンツを提供する、通信事業者以外の企業。



通期業績予想

(単位：百万円)

| | 2017年3月期 | 2018年3月期 | 2019年3月期 | | |
|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------|--------|
| | 実績 | 実績 | 予想 | 前年増減比 | 前期増減額 |
| 売上高 | 87,586 | 91,351 | 93,000 | 1.8% | 1,649 |
| 営業利益 (営業利益率) | 1,787 (2.0%) | 2,424 (2.7%) | 1,750 (1.9%) | △27.8% | △674 |
| 経常利益 (経常利益率) | 2,014 (2.3%) | 2,424 (2.7%) | 1,650 (1.8%) | △31.9% | △774 |
| 親会社株主に帰属する当期 純利益（損失） | 1,707 | 2,937* | 1,100 | △62.5% | △1,837 |
| 1株当たり 当期純利益 | 38.3 | 65.9 | 24.7 | △62.5% | △41.2 |

* 2018年3月期は株式会社IMAGICAティーヴィーの全株式を譲渡したことにより、関係会社株式売却益として特別利益21億77百万円を計上いたしました。



セグメント別 通期業績予想

(単位：百万円)

| | | 2018年3月期 | 2019年3月期 | | |
|-------------------|-----------------|-----------------|------------------|--------|--------|
| | | 実績 | 予想 | 前年増減比 | 前年増減額 |
| 映像コンテンツ事業 | 売上高 | 25,289 | 23,200 | △8.3% | △2,089 |
| | 営業利益 (営業利益率) | 799 (3.2%) | 800 (3.4%) | 0.1% | 1 |
| 映像制作サービス事業 | 売上高 | 27,725 | 29,300 | 5.7% | 1,575 |
| | 営業利益 (営業利益率) | 1,209 (4.4%) | 1,100 (3.8%) | △9.0% | △109 |
| メディア・ローカライゼーション事業 | 売上高 | 24,814 | 26,000 | 4.8% | 1,186 |
| | 営業利益 (営業利益率) | △674 (---%) | △1,050 (---%) | - | △376 |
| 映像システム事業 | 売上高 | 14,997 | 15,500 | 3.4% | 503 |
| | 営業利益 (営業利益率) | 1,449 (9.7%) | 1,600 (10.3%) | 10.4% | 151 |
| その他(連結調整) | 売上高 | △1,474 | △1,000 | - | 474 |
| | 営業利益 | △359 | △700 | - | △341 |
| 連結合計 | 売上高 | 91,351 | 93,000 | 1.8% | △1,649 |
| | 営業利益 | 2,424 | 1,750 | △27.8% | △674 |



配当方針と配当予想

配当方針

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要事項の一つと位置づけ、配当につきましては、連結業績に応じた利益配分を基本とし、連結配当性向の目標を30%とし、安定した配当の維持と配当水準の向上を目指しております。

なお、特別な損益等の特殊要因が当期純利益に大きく影響を与える場合は、配当の決定にあたり、基本的に特殊要因を考慮した配当性向を踏まえ、株主様への安定的な配当と今後の事業展開や内部留保の状況などを総合的に勘案し決定いたします。

| | 配当額 | 親会社に帰属する 当期純利益 | 1株当たり 親会社に帰属する 当期純利益 | 配当性向 | 注1) IMAGICA TV 売却影響除く 配当性向 |
|------------------|-----|-------------------|----------------------------|-------|----------------------------------|
| 2018年3月期 (実績) | 10円 | 2,938百万円 | 65.98円 | 15.2% | 31.2% |
| 2019年3月期 (予想) | 10円 | 1,100百万円 | 24.7円 | 40.5% | — |

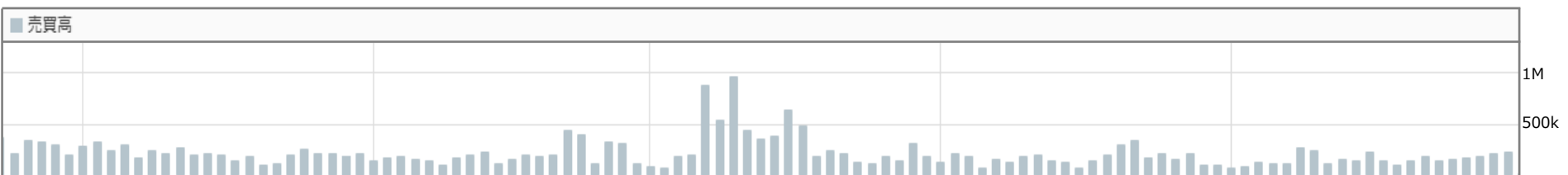
<注記>

IMAGICA TV売却影響除く配当性向 = 2018年3月期の特別利益に計上したIMAGICA TV売却益2,177百万円を除外した場合の1株当たり親会社株主に帰属する当期純利益32.03円から算出した配当性向になります。



株価の推移

2018年3月期決算発表



IRサイトのご案内

当社HP トップページ

Imagica Robot Holdings Inc. [採用情報](#) [お問い合わせ](#) [English](#)

HOME [グループについて](#) [企業情報](#) [株主・投資家情報](#) [ニュースリリース](#)

MAGIC FACTORY

- 映像コンテンツ事業
- 映像制作サービス事業
- メディア・ロカライゼーション事業
- 映像システム事業

映像制作サービス事業 ▶ ハイクオリティな技術力で映像制作をサポートします。

株主・投資家の皆様向けにIRメールの配信を開始しました

2019 新卒採用
グループサイトはこちら

株主・投資家情報

- イマジカ・ロボットグループ
- イマジカ・ロボット ホールディングス
- 映像コンテンツ事業
- 株式会社ロボット

| | |
|---------------|---------|
| 07/24 15:00現在 | |
| 現在値 | 938 |
| 前日比 | +19 |
| 始値 | 929 |
| 高値 | 943 |
| 安値 | 912 |
| 出来高 | 165,200 |

→株価チャート

個人投資家の皆様へ

Imagica Robot Holdings Inc. [採用情報](#) [お問い合わせ](#) [English](#)

HOME [グループについて](#) [企業情報](#) [株主・投資家情報](#) [ニュースリリース](#)

HOME > IR情報 > 個人投資家の皆様へ

個人投資家の皆様へ

個人投資家の皆様に、イマジカ・ロボットグループをご理解いただくための情報を集めました。

社長メッセージ

私たちは誠実な精神で、進化する「映像コミュニケーション」に取り組んでいきます。

メッセージを読む

イマジカ・ロボットグループとは?

- イマジカ・ロボットグループの沿革
- 事業領域

業績はどうなっているの?

- 財務ハイライト
- セグメント情報

| | |
|------|-------------|
| 資料内容 | 2018年3月期 |
| | ■第3四半期決算発表 |
| | ■第3四半期決算短信 |
| | ■第3四半期決算説明会 |
| | ■バライタ |

IRメール配信サービス

当社IR情報をご登録のメールアドレスにお知らせ致します。



<https://www.imagicarobot.jp/ir/irmail.html>

Imagica Robot Holdings Inc. [採用情報](#) [お問い合わせ](#) [English](#)

HOME [グループについて](#) [企業情報](#) [株主・投資家情報](#) [ニュースリリース](#)

HOME > IR情報 > IRメール配信

IRメール配信

最新の適時開示等、当社IRに関する情報について、ご登録のメールアドレスにお知らせいたします。IRメールは、株式会社マジカルポケットが提供するメール配信サービスを通じて配信しています。これから先は、IRメール配信サービスの登録・配信停止受付ページ(外部サイト)へ移動します。メールアドレスは株式会社マジカルポケットに登録していただくこととなり、当社がその内容を知ることはありません。メールアドレスのご変更につきましては、お手数ですが、一度「配信停止」の上、改めてご登録をお願いいたします。

| | |
|---------------|--------|
| 07/26 11:05現在 | |
| 現在値 | 947 |
| 前日比 | -7 |
| 始値 | 953 |
| 高値 | 956 |
| 安値 | 933 |
| 出来高 | 74,700 |

→株価チャート



事業セグメント別 事業会社一覧

| | |
|---|---|
| 映像コンテンツ事業 | |
| ロボット オー・エル・エム オー・エル・エム・デジタル オー・エル・エム ベンチャーズ | Sprite Animation Studios ピクス |
| 映像制作サービス事業 | |
| IMAGICA イマジカデジタルスケープ IMAGICAウェスト IMAGICAイメージワークス イマジカ・ライブ | イマジカアロベイス コスモ・スペース イマジカ角川エディトリアル ウェザーマップ |
| メディア・ローカライゼーション事業 | |
| SDI Media Group, Inc. | PPC Creative Limited |
| 映像システム事業 | |
| フォトロン フォトロン M&E ソリューションズ PHOTRON USA PHOTRON EUROPE | アイチップス・テクノロジー IPモーション |



用語解説①

| | |
|-----------------------|--|
| メディア・ローカライズ | 作品の現地化のこと。映像素材を海外で配信するために、音声の翻訳・吹き替え・字幕付けや、フォーマット変換などを行うこと。また、現地の法令・慣習・文化に合うよう作品の一部を改訂したりする。 |
| プロダクション | 実際の映像制作。撮影をメインに、作品に係るCG（コンピュータ・グラフィクス）の作成や音楽、効果音づくりを行う段階のこと。 |
| ポストプロダクション (ポストプロ) | 撮影素材を作品の流れに沿って編集を行う、色調を調整する、CGとの合成や音声と合わせるなど、映像の制作工程で撮影終了時点から作品完成までの処理工程のこと。また専門にこれらを扱う部門や会社の総称。 |
| VFX | Visual Effects（ビジュアル・エフェクト）の略で、特撮を用いた映画やテレビドラマにおいて、現実には見ることのできない画面効果を実現するための技術のこと。視覚効果（しかくこうか）ともいう。 撮影現場での効果をSFX（Special Effects, 特殊効果）と呼ぶのに対し、撮影後のポストプロダクション段階に付け加えられる効果をVFXと呼ぶ。 |
| デジタルサイネージ | 屋外・店頭・公共空間・交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステムの総称。 |
| アーカイブ | フィルムやテープ等に保存された過去の貴重な映像・音声素材を、記録精度が高く映像再現性に優れたデジタル映像の形で保存・蓄積し、次世代に継承していくこと。 |
| OOH | Out Of Homeの略で、自宅の外で接触するメディアの総称。電車やバスなどの車内・車体や駅構内、空港などを利用した「交通広告」と、建物の屋上、壁面を利用した看板やネオンサイン、道路沿いのビルボードなどの「屋外広告」が代表例 |
| OTT | 「Over The Top」の略称。動画や音声などのコンテンツを提供する、通信事業者以外の企業のこと。 |



用語解説②

| | |
|------------------------|---|
| 4K、8K（映像） | 4Kとは横4,000×縦2,000ピクセル前後の解像度に対応した映像に対する総称を言い、現在主流のフルハイビジョンの4倍の画素数を有する。8Kはフルハイビジョンの16倍の画素数で、圧倒的な臨場感を提供することができる。 |
| ライツビジネス | 著作物を利用したビジネスのこと。 |
| 興行収入 | 観客が映画館に支払う入場料の合計金額のこと。以前は映画の成績に、興行収入から劇場収入等を差し引いた配給収入が使われていたが、2000年以降は海外に合せて興行収入が使われるようになった。 |
| 3Dプロジェクションマッピング | 建物などの凹凸を3Dデータ化しておき、その表面に立体的な映像をプロジェクターで映写する技術のこと。 |
| ディレクター（監督） | 制作現場を統括する責任者。企画、台本、出演者などを選び、演出、音響、照明、演技指導など、作品全ての責任を持つ。想像力や芸術的なセンスの他、統率力や判断力、長時間にわたるハードワークに耐える体力と気力も必要不可欠。 |
| プロデューサー | 映画やテレビ番組を企画、立案し、作品にする総合責任者。 |
| ハイスピードカメラ | 高速現象を撮影することを目的としたカメラ。ハイスピードカメラで撮影した映像を通常の速さで再生すると、スローモーションとして見るができる。高速度ビデオカメラともいう。 |
| デバッグ | ゲームなどのプログラムの中の「バグ」と呼ばれる欠陥や誤りを探して修正すること。プログラム開発において、重要な意味を持つ作業。 |
| VR（仮想現実） | Virtual Realityの略で、仮想世界に現実の人間の動きを反映させて、現実ではないが現実のように感じさせる技術のこと。 |
| AR（拡張現実） | Augmented Realityの略で、現実の環境から知覚に与えられる情報に、コンピュータが作り出した情報を重ね合わせ、補足的な情報を与える技術のこと。 |



お問い合わせ先

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス 企画部
〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-2 内幸町東急ビル11階
T E L : 03-6741-5742 F A X : 03-6741-5752
Email : ir@imagicarobot.jp
URL : <https://www.imagicarobot.jp/>

【将来予測について】

本資料に記載されている当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。



